

令和4年 第10回全員協議会会議録

令和4年9月30日 議員控室

○事 件

町長報告事項

- (1) サーモン養殖事業の今後の方向性について（サーモン推進室）
- (2) コロナ感染者の公表の見直しについて（総務課）

○出席議員（14名）

議長 千 葉 隆 君
赤 井 睦 美 君
横 田 喜世志 君
関 口 正 博 君
倉 地 清 子 君
牧 野 仁 君
斎 藤 實 君

副議長 黒 島 竹 満 君
佐 藤 智 子 君
大久保 建 一 君
宮 本 雅 晴 君
三 澤 公 雄 君
安 藤 辰 行 君
能登谷 正 人 君

○欠席議員（0名）

○出席説明員（10名）

町長	岩 村 克 詔 君	副町長	成 田 耕 治 君
総務課長	竹 内 友 身 君	財務課長	川 崎 芳 則 君
サーモン推進室長	田 村 敏 哉 君	サーモン推進室参事	田 村 春 夫 君
サーモン推進室参事	吉 田 一 久 君	サーモン推進室参事	井 口 貴 光 君
推進係長	松 田 力 君	総務課長補佐	相 木 英 典 君

s

○出席事務局職員

事務局長	三 澤 聡 君	事務局次長	成 田 真 介 君
庶務係長	菊 地 歩 夢 君		

◎ 開会・議長挨拶

○議長（千葉 隆君） それでは全員協議会を開催いたします。

今回の全員協議会は、本来９月定例会の会期中に開催する予定が変更になって今日になっておりますので、その辺の関係も含めて、皆さんにはご了承願いたいと思います。

◎ 町長報告事項

○議長（千葉 隆君） それでは、町長報告事項（１）サーモン養殖事業の今後の方向性についての報告をお願いいたします。

○町長（岩村克詔君） 議長、町長。

○議長（千葉 隆君） 町長。

○町長（岩村克詔君） 臨時会のあとまた全員協議会を開いていただきまして、ありがとうございます。

サーモン養殖事業の説明に入る前に、ずっと心に引っかかっていたことがありまして、先般の全員協議会におきまして、私の発言、ちょっと場外で発言したと思いましたが、やはり撤回とお詫びをしたいということでご了承いただきたいと思います。

まずは、先般の発言でいろんな不適切の発言があったことに対しましては、議員の皆様大変ご迷惑をかけたことに対しまして、深くお詫びを申し上げたいと思います。さらにですね、発言につきましては撤回をさせていただきたいと思います。

そして、これから私の残すところ任期あと３年ですので、議員の皆さんの意見を尊重しながら住民の意見を聞いて、十分に反映しながら町政執行していきたいと思っていますので、引き続き議員の皆さんにはご指導・ご協力をお願い申し上げまして、前回の発言の訂正とお詫びに代えさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、サーモン養殖事業につきましては、担当課より説明させますので、よろしくお願いいたします。

○サーモン推進室長（田村敏哉君） 議長、サーモン推進室長。

○議長（千葉 隆君） サーモン推進室長。

○サーモン推進室長（田村敏哉君） サーモン推進室田村でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

事前に皆様のお手元に北海道二海サーモンプロジェクト今後の方向性概要版、それから北海道二海サーモンプロジェクト未来に向けての挑戦 今後の方向性（案）ということで、本編になるものでございます。

ご報告させていただく前に、まず皆様に何点かお詫びさせていただけなければならないところがありまして、一つ目はこれからご説明させていただく、二海サーモンの方向性について、夏場までということで少し報告が遅れてしまった点でございます、お詫び申し上げます。

それから二点目、事前にお配りさせていただいた資料に、記載ミス、それから誤った記入、それからワープロでの変換ミス等がございまして、本日遅くなってしまいましたが、お手元に正誤表を

一枚ものでお配りさせていただきました。これもご参照いただきながらご説明させていただければと思います。

それでは、ご報告に移らせていただきますが、北海道二海サーモン関連事業につきまして、北海道二海サーモンプロジェクト未来に向けての挑戦 今後の方向性(案)を作成させていただきました。事前に委員の皆さんにお配りした資料は先ほどお話ししたとおりでございます。説明につきましては、概要版のほうを中心にご説明させていただければと思います。

皆様におかれましては、二海サーモン事業の内容について、既に重々ご承知のことも多々あると思いますが、ご説明させていただきます。

概要版の1ページ目です、概要版の1の趣旨というところでございます。この北海道二海サーモンでいくと今後の方向性を作成した趣旨ですが、これまで令和元年12月から令和4年5月まで、約3年にわたり、サーモン海面養殖の試験事業を実施してきたところでございます。これまでサーモン養殖事業の全体像、今後の構成、ロードマップなどを示すべきではないのかとのご意見もいただいております、この度、八雲町やサーモン養殖を取り巻く状況を踏まえつつ、八雲町の未来を支える地域産業の維持活性化の取り組みの一つとして、これまでの取り組みも顧みるとともに、北海道二海サーモン事業の今後の方向性について案を作成したものでございます。

2の構成についてでございます。今後の方向性についてでございますが、はじめに、それから八雲町及びサーモン養殖を取り巻く状況、それから北海道二海サーモンプロジェクトの取り組み状況、北海道二海サーモンプロジェクト今後の方向性、今後の方向性の中にロードマップと想定収支を含んでおります。それで最後に終わりにという構成とさせていただきました。

3番目の概要についてでございます。ここから今後の方向性の概要についてご説明させていただきます。初めにこの方向性を記すにあたっての情報を記載させていただきました。

1 八雲町及びサーモン養殖を取り巻く状況についてでございます。八雲町及びサーモン養殖を取り巻く状況では、まず八雲町を取り巻く状況として、(1)八雲町の人口推移、重々皆様ご承知のことと思いますが、日本全国で人口減少、少子高齢化が進展する中で八雲町の人口推移、年齢階層別人口において示しております。本編のほうにはグラフも含めて入れておりますので、一緒にご覧いただければと思います。

渡島北部の中心の町である八雲町においても人口は減少傾向で推移しております。平成17年、合併時の人口は約2万人だったものが、令和2年には約15,800人まで減少、この15年間で21%の減少となっております。令和2年から20年後人口推計になりますが、令和22年は約9,400人と1万人を割り込む人口推計とされております。また、令和2年の年齢階層別の3階層による年齢階層別人口の割合を見て見ると、八雲町全体では年少人口が10.2%、生産年齢人口が54.4%、老年人口、いわゆる高齢化率が35.4%となっております。

これを八雲地域と熊石地域で分けてみますと、八雲地域では年少人口は11%、生産年齢人口が56.8%、老年人口が32.2%です。熊石地域は、年少人口が4.9%生産年齢人口が37.7%、老年人口が57.4%となっています。特に熊石地域の年少人口と生産年齢人口の減少が大きく高齢化率が非常に高い状況となっております。

次に(2)として、八雲町の漁業水産業の状況でございます、八雲町の漁業水産業の柱はホタテ貝、スケトウダラ、サケ、スルメイカが漁獲の柱となって地域を支えています。

八雲町全体の漁獲量と漁獲金額は平成 17 年約 31,000 t で漁獲金額は約 74 億円でした。ピークは平成 27 年で約 41,000 t で、漁獲金額は約 135 億円、直近の令和 2 年は約 16,000 t で約 37 億円となっております。八雲地域では平成 17 年約 28,000 t で約 66 億円、ピークが平成 27 年の約 41,000 t、漁獲金額約 133 億円、令和 2 年が約 15,000 t で約 36 億円の水揚げとなっております。

熊石地域は平成 17 年約 2,500 t、金額で約 7 億 5 千万、ピークは平成 18 年約 2,600 t で約 8 億 2 千万、直近の令和 2 年が約 286 t、水揚げ額で約 1 億 3 千万という状況となっております。

本編のグラフを見ていただいたらわかると思いますが、八雲町全体と八雲地域、この合計は同じになっています。これはホタテが大部分を占めていてホタテに大きく左右されています。それで熊石地域を見ていただいたらわかりますが、グラフも見ていただけたらわかりますが、熊石地域の平成 17 年と令和 2 年の漁獲量、漁獲金額を比較して見ますと、非常に厳しい状況になっているというのがよくわかります、

平成 17 年時、八雲町全体ではホタテ貝が約 25,000 t、約 55 億円だったものが、令和 2 年はホタテの大量遺失もあったことから 12,000 t と約 25 億円まで半減以下になりました。

同様にスケトウダラが約 3,200 t、約 5 億 7 千万だったのが 392 t まで減少し、約 2,400 万、サケは約 1,100 t、約 2 億 7 千万だったのが 304 t、約 2 億 3 千万となっております。

八雲地域の主要魚種の漁獲量・漁獲金額は、八雲町全体とほぼ同様の額となっております。一方熊石地域は平成 17 年当時、スケトウダラが約 1,700 t、約 4 億 2 千万だったのが、令和 2 年には漁獲がカウントされない、つまり 1 トン未満、漁獲は統計上カウントしない状況まで落ち込んでいるということになります。スルメイカが約 394 t、約 1 億 1 千万あったのが、令和 2 年には 19 t、約 1,100 万円の水揚げです。サケは約 171 t、約 4,400 万円あったのが、令和 2 年は約 26 t、約 1,800 万円まで落ち込んでいます。

今、お話をさせていただいたとおり、八雲町と八雲地域では漁獲量、漁獲金額は減少しておりますが、ホタテ貝、スケトウダラ、サケが依然として三本柱となっていることがわかります。これは本編のほうに書いた表にありますとおり、本編の 10 ページに表が書いてありますが、これが八雲町、八雲地域、熊石地域、それぞれの主要魚種の漁獲量と漁獲金額の平成 17 年と令和 2 年の比較です。太字にしたものが柱といわれているところです。これを見ていただくと今の漁業、水産業の状況がどのように変わったかというのが、おわかりいただけると思います。

それで、一方、熊石地域では平成 17 年当時はスケトウダラ、スルメイカ、サケが主力の三本柱だったんですが、スケトウダラが獲れなくなり、更に近年はスルメイカの不漁が続き、サケの漁獲量が減少し、漁獲量、漁獲金額ともに大幅に減少して落ち込んでいます。

八雲町ではホタテ貝の漁獲金額に大きなシェアを占めておりまして、ホタテ貝の漁獲の●●が大きく左右されることがわかります。ここ数年は原因不明のホタテ貝の大量へい死により、漁獲量・漁獲金額が減少していることから、もうおわかりになるものと思います。また熊石地域はこれまで漁獲を支えていたスケトウダラ、スルメイカの漁獲不振、サケの不漁が続き大変厳しい状況となっております。

これが今の漁業水産業の内容ですが、もう少し細かく、熊石地域の漁業従事者の状況を見ていきたいと思っています。それが概要版でいいですと 2 ページの中ほどに書いています。本編になりますと 11 ページ 12 ページ、グラフも含めて書いています。

(3) 熊石地域の漁業従事者の状況というところでございます。八雲町八雲地域、それから熊石地域の漁業水産業の状況を見てきましたが、厳しい状況となっている熊石地域の漁業従事者の状況を見ますと、ひやま漁協熊石支所の正組合員数は年々減少しております。令和3年度末の正組合員数は34名です。それで34名の正組合員のうち60代以上が27名で、79.4%を占めており、高齢化が顕著となっております。今後の漁業生産活動の影響を検討して考えていかなければならない状況だと思われま。

グラフ本編12ページのグラフを見ていただくとおり、これが10年後になると、そのまま皆さんスライドしていくということになると、新しい後継者、組合員が入ってこない漁業がなかなかそこで獲る人がいなくなってしまう、生産活動がストップしてしまうということが危惧されます。

次に、これまで八雲町を取り巻く漁業、水産業の中心に見てきましたが、次にサーモン養殖を取り巻く状況というのはどのようなになっているのかをご説明したいと思います。

それについては2ページの真ん中から下のところ、本編でいうと13ページからになります。(4) 国の水産養殖の考え方でございます。水産庁ですね。国におきましては漁船漁業の漁獲が頭打ちとなっている、水産資源の漁獲が不安定の中、国民に安定して水産物を供給していくため、計画的に安定的に生産できる養殖は必要不可欠との考えになっております。

国は令和元年7月に養殖業、成長産業化推進協議会を設置して、戦略的な養殖品目を設定し、令和3年7月に養殖業、成長産業化戦略を策定しております。

この中で将来、国内外で需要が量的、地域的に拡大が見通せて、我が国の養殖業の強みを生かせる戦略的養殖品目、5魚類の一つとして、サケマス類を設定しているところでございます。

次に(5) 道の水産養殖の考え方はどうなっているんだということをご説明したいと思います。道の水産養殖の考え方はといいますと、実を言いますと、令和4年度からスタートいたします、第8次北海道栽培漁業基本計画において、計画的かつ安定した生産が見込まれる魚類養殖などの新たな増養殖に積極的に取り組むため、初めて養殖推進室を設定、堆肥別災害漁業しい新計画の中で、日本海南部地域の養殖推進種の一つとして、ニジマス・トラウトサーモンを位置付けました。つまり日本海南部、熊石もそうですが、そこでニジマス、注意することはいろいろありますが、ニジマス・トラウトサーモンの養殖を、道としてもこれから推進していかないといけないということで位置付けて行ったということになります。

じゃあ、サーモンというのはどういう位置付けに消費者から見たらなっているのかというのが、2ページの1番下、それから本編だと15ページに書かせていただいています。

(6) サーモンの人気の拡大ということで、サーモン養殖をするんじゃないくて、その需要、人気はどのようなになっているところが気になるころだと思います。

本来、皆さんもご承知のとおり、サーモンというのはサケとなりますが、サケというのは火を通して食べるものということで、当然そういう調理で我々はこれまで食べてきました。ところが昭和60年頃からノルウェー産の養殖サーモンが輸入され始めて、平成当初から回転寿しを中心に、サーモンを生で食べる、サケを出しても皆、手を付けないので、サーモンという名前にして回転寿しに出して生で食べれるってものになってから、人気に火が付いたと言われております。

それでこの頃、子どもだった層が30代40代になって親になり、その子ども達もサーモンを生食することに抵抗がなくなって、民間事業の調査でございますが、サーモンの嗜好に関する調査では、

どの世代でもサーモンは大好き、まあ好きが多く、全体でも約 78%の人がサーモンを好んでいるという結果となっています。

また、回転寿しでよく食べるネタとして、11 年連続でサーモンが第一位となっています。道内に限っていいますと、道内有力回転寿し 3 社の調査でも 3 社ともサーモンが 1 位に輝いている状況です。このようにサーモン人気は拡大しておりまして、現在はコロナ禍で止まっていますインバウンドを含め、サーモンは有望な食材とされております。

ところが次の（7）、概要版でいうと 3 ページ目になります。それから本編だと 16 ページ目、サーモンの人気でサケ王国ということで、北海道はサケ王国というかたちでこれまでずっと言われてきました。ところが北海道のサケマスの漁獲は近年回帰率、種苗、川から見に行ってもらって、入ってきてそれを漁獲していますが、そのサケマスの回帰率が低下している。返ってこないものですから漁獲量は激減していると。16 ページのグラフをご覧くださいとおりでございます。この状況が続いていて、これがどのように回復していくかというのは、まだよくわかっていないというのが現実でございます。

それで（8）国内のサーモン養殖はどうなっているんだろうかというのが、本編の 17 ページを見ていただいたら、これは国の水産研究所の方が作ったものですが、サケマスの漁獲量が大幅に減少している状況下において、日本国内ではサーモン養殖が盛んになっています。実をいうと北海道はこれまで、ある魚種が取れなくてもほかの魚種が獲れていたもので、帳尻を合わせてやってきましたが、本州はもっと深刻で、実をいうと漁獲がなくて漁協経営が非常に厳しい、それで安定的・持続的にできる養殖を手掛け始めて、サーモンやっている状況です。全国で 100 種類以上のご当地サーモンと言われる名前を付けるサーモンが出てきておりますが、ただ、すべてではないですが、このサーモンそれぞれ数トン程度で生産量の拡大がなかなか難しいというのが現状で、影響力には限界がある状況にあると言われております。

それで北海道でもご承知のとおり、熊石を中心に、道南を中心にトラウトサーモン、サクラマス、それから函館はキングサーモンなど、サーモン養殖が行われるようになってきています。さらに最近では技術革新が目覚ましいこともあって、サーモン陸上養殖もブームになりつつあり、大手商社などが参入しているような動きが出てきているということになっております。

次に 2 の北海道二海サーモンプロジェクトの取り組み状況について、ご説明させていただきます。本編でいうと 18 ページになります。

（1）北海道二海サーモンプロジェクトの取り組み概要ということで、ご承知のとおり、八雲地域では、原因不明の大量のホタテのへい死、熊石地域でのスケトウダラ、スルメイカの漁獲不振により、新たな水産資源の開発及び持続的かつ安定的な漁業水産業経営に進める取り組みが必要となっている状況であります。

本道のサケマスの漁獲量が減少して国内でサーモン養殖が盛んになっているものの、消費者に人気が高いサーモンは今後も需要が期待される養殖魚種として有効と考えられております。

八雲町の基幹産業の一つの漁業水産業の衰退は、地域経済に与える影響が非常に大きく、人口減少・少子高齢化の中、八雲町が持続的に地域の維持活性化を図っていくためには、漁業・水産業をはじめ、地域産業の維持活性化に取り組み、地域全体へ波及させていくことが必要となっているものと考えております。こうした背景のもと、令和元年 12 月からサーモン養殖の海面養殖をスタートしたところでございます。

八雲地域での取り組みでございます。八雲地域ではホタテ貝のへい死から、新たな水産資源の開発をと考えたら、落部漁協青年部が事業主体となって、令和元年 12 月から令和 4 年 6 月までの期間、東野漁港内で海面養殖を実施しております。

水揚げ量、それから水揚げ尾数、生残率は令和 2 年で 0.9 t、328 尾、生残率 90.1%、それから令和 3 年が 3.3 t、1,400 尾、生産率が 80.8%、令和 4 年 1.7 t、609 尾、58.8%、令和 4 年の平均重量は 1 尾当たり 2.8 kg という結果でございました。八雲地域ではホタテの大量へい死が収束しつつあり、ホタテ養殖に注力することからサーモン養殖事業は令和 4 年 6 月の水揚げを持って一時休止することとしております。

(3) 熊石地域での取り組みでございます。熊石地域はスケトウダラ、スルメイカの漁獲量が大幅に減少、新たな水産資源の開発をとという考えから、ひやま漁協、サーモン養殖部会が中心となり、令和元年 12 月から令和 4 年 5 月の期間、熊石漁港内で実施し、水揚げ量、水揚げ尾数、生残率は、それぞれ令和 2 年が 2.5 t、722 尾、生残率が 92.2%、令和 3 年が 4.2 t、1,391 尾、87.8%、令和 4 年が 11.8 t、3,506 尾、89.8%、令和 4 年の平均重量は約 3.4 kg という結果でございました。

熊石地域では、スケトウダラ、スルメイカ等の漁獲が戻らず、持続的かつ安定的な漁業・水産業を目指し、今後も八雲町の新たな水産資源・地域資源としてサーモン養殖を継続して実施していくこととしております。

(4) 北海道二海サーモンの付加価値向上に向けた取組みということでご説明させていただきます。概要版でいいますと、4 ページ目になります。本編になりますと、21 ページになります。

令和 4 年、北海道二海サーモンの水揚げが 13.5 t となり、八雲町の新たな水産資源としての効果が見られてきたことから、二海サーモンの知名度・認知度向上・今後の付加価値向上を目指し、メディアへの働きかけによる拡大を図るとともに、二海サーモンの商標登録、北海道二海サーモンのホテルサマーフェア、食育地産地消の観点から八雲町内小中学校での二海サーモンと地元牛乳とのコラボ給食の実施、八雲町内のスーパーマーケットでの販売、回転寿しや寿司店への提供などの取り組みを進めてきたところでございます。

次に 3 番目として、北海道二海サーモンプロジェクトの今後の方向性ということで、これが一番の本日の肝になると思いますが、本編でいうと 22 ページ、概要版でいうと 4 ページ目の中段になります。

(1) 北海道二海サーモン養殖の本格事業化に向けての考え方。まず北海道二海サーモン養殖の取り組みについての基本的な考え方といたしまして、これまでの 3 年間のサーモン養殖の海面養殖事業の試行錯誤、模索の第一期の試験事業と位置付けましたが、令和 4 年から熊石地域において 2 年間延長して実施する養殖試験事業は、本格事業化に向けた準備期間と位置付けられるものと考えております。

令和 6 年からの北海道二海サーモンの本格事業化に向けて、種苗生産、海面養殖、付加価値向上・販路拡大、加工等といった各フェーズにおきまして、八雲町、ひやま漁協熊石支所、サーモン養殖部会、企業等が協力・連携しながら役割分担し、取り組みを推進していくことを考えております。

北海道二海サーモンの取り組みへの町としての方針は、スタートアップの初期投資について支援を行ってきておりますが、一定程度軌道に乗ったあとは、原則各それぞれの機関が主体となって取り組みを進めることを考えております。

なお、今後の事業規模拡大などの設備投資等については、その状況に応じて各機関との関係者間で協議していくことも想定しております。

関係する各機関の役割でございますが、一つとして、サーモン種苗生産があります。サーモン種苗生産は、八雲町熊石サーモン種苗生産施設を中心に、八雲町、町と企業で設立予定のサーモン種苗生産法人で担当し、生産した種苗は熊石地域の海面養殖をはじめ、サーモン養殖に取り組む周辺地域に販売していくことを想定しています。

次に海面養殖についてでございます。サーモン海面養殖は海面利用や区画漁業権の関係もあることから、ひやま漁業熊石支所及びサーモン養殖部会が主体となり、検討・協議のうえ進めていくこととしております。

三つ目、サーモン付加価値向上・販路拡大の部分でございます。北海道二世サーモンの付加価値向上と販路拡大は、ひやま漁協熊石支所とサーモン養殖部会が主体となって取り組みを進めることを基本に、八雲町としての新たな地域資源、特産品として、各種イベント実施やPR活動において付加価値向上や販路拡大の取り組みに協力していくことを予定しております。

四つ目の加工等についてでございます。町としてはひやま漁協熊石支所や企業等とも相談しながら、当面は加工事業者の協力を得て必要となるサーモン加工を実施しつつ、今後のサーモン生産量や周辺の水産物の漁獲などの状況を見極めつつ、情報収集、調査研究、検討を行っていきたいと思っております。また、技術革新により最近盛んになっています陸上養殖についても情報収集、調査研究検討を行っていくこととしております。

次に（２）北海道二世サーモンのプロジェクトのロードマップでございます。

お手元の概要版と本編にも付けておりますが、A3の三つ折りにしている別紙1というものを併せてご覧いただければと思います。

別紙1が北海道二世サーモンプロジェクト想定ロードマップとなっております。このロードマップは、今後の北海道二世サーモンプロジェクトの取り組み方向を示すものとして作成したものです。別紙1のロードマップの左側の区分の欄に、今、基本的な考え方としてご説明したサーモン種苗生産、それからサーモン海面養殖、サーモン付加価値向上・販路拡大、陸上養殖加工施設等の区分ごとに、今後の想定のロードマップを示しています。

まず、サーモン種苗生産についてでございます。サーモン種苗生産については、八雲町と企業が出資するサーモン種苗生産法人を、平成6年に設立を想定しております。サーモン種苗のコスト削減を図るため、生産施設を検討しつつ、段階的に種苗生産を増加させていくこととしております。具体的には河川流量等調査を行いながら、生産施設増設の検討を行い、実施設計工事、当面は熊石サーモン種苗生産施設で約3万尾の種苗生産を行う予定でいます。増設後は令和7年度以降22万尾、令和8年度以降44万尾の生産を想定しています。また、近年災害が増加していることを踏まえ、今年度、購入を予定しております、上八雲地区の種苗生産施設をバックアップ施設として位置付け、種苗生産3万尾の生産を見込んでおります。令和8年度以降、全体で50万尾ほどのサーモン種苗生産を想定しております。また種苗販売については令和5年度から試験的に実施、法人設立後の令和6年度以降、本格化していくことを想定しております。

なお、サーモン種苗生産は、サーモン種苗生産法人に移行後、その施設運営費は原則、法人の負担と考えております。

次に、サーモン海面養殖についてでございます。サーモン海面養殖につきましてはひやま漁協熊石支所、及びサーモン養殖部会が主体となりまして当面は熊石漁港内で1尾当たり3kg以上の水揚げを目指します。具体的には、現在1基の20mの円形生簀を、毎年1基ずつ増やしていき、令和5年度、生簀で2基、生産量としては約27tから30tの想定をしております。令和6年度は生簀3基で約40トンから45tの生産を想定しています。これ以降は海面環境などを確認しながら熊石漁港内に4基目5基目の生簀を増設できるかどうかも含めて検討していくこととなります。このロードマップに令和7年度以降、括弧で書いている生産量とかというのは増やしていったときに想定されるものとして書いております。

サーモン海面養殖につきまして、熊石地域での海面養殖適地についても調査・検討していくこととしております。サーモン海面養殖に対しての補助については、海面養殖期間が終了する令和6年、水揚げ終了時までと考えておりまして、海面養殖の規模拡大など、別途協議することも考えております。

今後のサーモン種苗生産・海面養殖の効果的・効率的な運営をしていくために、IPを使ったスマート養殖化に向けた試験を、種苗生産施設と海面養殖の両方で実施していくことも予定しております。

次にサーモン小付加価値向上・販路拡大についてでございます。海外産や国内産養殖が増加している中、八雲町の新たな地域資源、特産品として八雲町、ひやま漁協熊石支所、サーモン養殖部会と協力しながら、メディアへのPR等の実施、二海サーモンの評価調査や成分分析調査を実施し、さらに付加価値を高めていくことを予定しております。

現在の北海道二海サーモンの現時点での想定ロードマップのご説明は以上となります。

一番下の陸上養殖加工施設につきましては、企業等の協力も得ながら熊石地域を主な対象として将来的にはサーモン養殖事業の拡大も視野に入れて、情報収集、調査研究、検討を行っていくこととしております。

次の(3)サーモン養殖生産施設想定収支、別紙2のA3の紙になります。大変申し訳ございません、別紙2のところで、正誤表にも申し訳ございません。下の収入のところでございます。収入のところに種苗販売というのと種苗運搬技術料というのがございます。これ足した数字が④の収入計になりますが、ここ種苗運搬技術料の部分が足さきっていないので、これが若干、収入としてプラスになるということでございます。大変申し訳ございません。

別紙2のところについてですが、まず、この別紙2の右上、別紙2と四角で括った下に、令和4から令和10期までの費用を書いています。年度で考えてもいいのですが、実を言いますと、年度で考えると結構複雑になりまして、基本的な流れを言いますと、サーモンの種苗生産施設に11月頃から12月にかけて種卵といわれる卵を入れます。その卵をふ化させて稚魚にして、700gとかの大きさにして、1年間かけてきたものを、また11月に海面養殖の漁港の生簀に入れて、半年間かけて翌年の5月頃を中心に3kgくらいにして、成魚として出荷するという1年半のサイクルでございます。ですので、このサーモン種苗生産施設の11月から12月にかけて卵を入れるということを想定して、令和4期はイレギュラーですが、各期は12月から翌年の11月までの1年間というかたちで収支を出させていただいております。

令和4期は4月から11月までですので、参考として掲載しています。サーモンは種卵から育て、海面に出す際には700g、だいたい0.7kgの幼魚にして成長させることを想定しております。

それで種卵の売買単位は卵自体は 10 万粒が一単位というかたちの売買単位になっておりまして、サーモン種苗の販売は R 5 からは試験的な販売ということで予定しております。その際の単価はキロ当たり 700 円、R 8 からは生産量が増えてコストがかかるので、600 円での販売を想定しております。

サーモン種苗生産は R 4 から八雲町が実施しておりますが、現時点での想定では R 5 期と R 6 期は町が運営することとし、R 6 期中に設立するサーモン種苗生産法人に、R 7 から運営を引き継ぐことを想定しております。

サーモン種苗生産施設の想定収支ですが R 5 期から R 6 期は最大で 3 万尾の種苗生産、経常経費は約 3,800 万、収入は種苗生産で 1,580 万に 40 万足して 1,600 万ちょっとになります。経常収支としては 2,000 万程度、町が持ち出ししなければならないかたちと考えております。

全体収支は R 4 期から R 7 期にかけまして、施設開設時の備品購入は施設整備修繕・更新、施設増設に向けた調査・設計の臨時経費がございまして、R 5 期で約 6,800 万程度、R 6 期で約 4 億 7,500 万ぐらい、町として負担しなければならないというかたちになっております。R 7 から種苗生産法人が運営していくこととなりますが、施設増設が半分終了して稼働し、種苗生産を約 25 万尾に増大する想定しておりまして、生産量増と販売量増によるスケールメリットから、経常収支は約 1,500 万円程度と見込んでおります。

ただし種苗生産施設の全体収支は R 7 期には、まだ残り半分の施設整備等が残っているため、4 億 1 千万程度の赤字というかたちになっております。なお、施設整備については八雲町が負担することとしているため、種苗生産法人としての R 7 期の全体収支は、経常収支と同様の 1,500 万程度の黒字となることとなります。

R 8 からは工事が終わり、約 50 万尾のサーモン種苗生産体制となることとしております。初期投資も終了いたしますことから、経常収支、全体収支ともに約 2,300 万円の黒字となることを想定しております。種苗生産施設の資金負担については種苗生産法人による運営を移行するまでの、R 4 期から R 6 期の種苗生産施設の経常経費と、R 4 期から R 7 期までの臨時経費は初期投資として八雲町が負担することとしております。

R 7 期からの経常経費と、R 8 期以降の臨時経費については、種苗生産法人が負担することとしております。町の負担としては R 4 期から R 6 期の種苗生産施設の経常経費として、運営費ですね、約 1 億円、R 4 期から R 7 期の種苗生産施設の増設等の臨時経費、初期設備投資として約 9 億 6 千万、計約 10 億 6 千万となりますが、R 5 期から R 6 期の種苗販売収入、約 3,000 万ぐらいを差し引くと 1 億 3 千万ぐらいになるかなと思います。ただ種苗生産施設にあたりましては、国や道の補助金、あるいは交付税措置がある起債を求めることをしておりまして、さらに町の負担を軽減できるように進めていきたいと考えております。

(4)、別紙の 3 になります。これまでは町と企業が一緒にやる、サーモンの種苗生産の想定収支でございました。最後の別紙 3 のところです。

別紙 3 はサーモンの海面養殖の収支でございます。この主体をですね、当然、ひやま漁協熊石支所あるいはサーモン養殖部会が主体となっております。

まずはじめに、想定収支の各期の考え方です。別紙 3 と書いた下に各期の周期を書いてありますが、海面に種苗を入れるのが、だいたい 11 月、12 月ぐらいを想定しておりまして、そこから翌年、水揚げの令和各年の 5 月頃を揚げることから、これを一つの期として収支を想定しております。

この5月まで入れた6か月間で約5倍くらいまで成長させて出荷することとなりますが、R1期からR3期までは第1期の試験事業としております。R4期からR5期は本格的に向けた準備期間としての第2期の試験事業として位置付けまして取り組んでいます。

海面養殖事業の基本的な考え方として、R1期からR3期までの試験事業を終えて、R4期とR5期は本格事業に向けた準備期間として、ひやま漁協熊石支所、サーモン養殖部会に町として補助してまいります。

ただ、R5期、令和6年5月の水揚げを終了した時点以降は、町の補助は終了いたしまして、サーモン養殖部会が自立して事業を実施していただくこととしております。R1期からR5期は町が補助することになりますが、町の補助対象経費は、別紙3の左下の囲みにありますとおり、種苗購入費、馴致費、馴致というのは淡水から海水に入れるときに魚を慣らすために使う経費でございます。馴致費、それから施設等整備費、その他として食味試験や町民販売経費等としております。

なお、R5期の種苗購入代と種苗餌代は、サーモン養殖部会が負担し、町の補助はしないこととしております。これはR6期から本格的に自立してやっていくということから、徐々に若干、補助を減らしていくということを想定しています。なお、費用を拡大していくことについては、また協議しながら進めていきたいと考えております。

サーモン種苗、海面養殖するのにお金がかかるのがサーモンの種苗の購入費、それから餌代になりますが、サーモン種苗、幼魚の購入代は、R5期からR7期まではキロ当たり700円で購入し、R8期以降はキログラム当たり800円の購入を想定しております。

これは先ほどご説明しました、種苗生産施設での生産を拡大するのにあたってコストが下がりますから、種苗コストが下がるので、漁業者の単価も下がるとなっております。

成魚の販売は、R4期とR5期はキロ当たり900円、R6期以降は1,000円を想定しております。これを前提として想定収支を計算いたしました。収支はR1期からR3期は試験事業期間としての町の補助により、生簀等の設置や経費負担がなく、R3期は約400万程度の黒字となっております。

R4期からR5期は、各1基ずつ生簀の増設を行うとともに、R5期は種苗購入代と種苗代はサーモン養殖部会で負担し、町の補助を減らし、R6期以降のサーモン養殖部会の自立事業化を見据えた取り組みを行います。

R4期が約1,900万、R5期が約600万の黒字を目指します。町の補助を受けていたR1期からR5期の試験事業期間の剰余金の累積は約2,900万程度となり、R6期以降の設備投資資金として、今後4基目5基目の生簀設置の検討など、サーモン養殖に必要な設備資金に充当していただこうと考えております。

R6期以降は町の補助が終了して、サーモン養殖部会が自立して事業を実施し、每期だいたい600万から700万の黒字で推移する見込みで想定しております。

町からサーモン養殖部会の補助金はR1期からR3期が約2,900万、R4期からR5期が約4,700万の計7,600万を想定していますが、国や道の補助金の一部を充当することとしており、負担が軽減することも進めていきたいと考えております。これがサーモン海面養殖の想定収支でございます。

最後に終わりにというところでは、北海道二海サーモンプロジェクトの今後の方向性の目的の言葉として、サーモン推進室としての思いを記させていただきました。

本ページの一番最後、34 ページ目に書いていますが、簡単にお話させていただきますと、令和元年 12 月から新たな挑戦として始めた、北海道二海サーモンプロジェクト、試行錯誤しながら一歩一歩前進はしていますが、その道程はまだ緒についたばかりです。今後多くの様々な課題を乗り越えながら挑戦を続けていくことになると思います。

人口減少と少子高齢化が進展していく中、生産年齢人口が減少し、地域産業、特に基幹産業の後継者担い手不足、それから未来の八雲町にとって極めて重要な課題である町内の若者が学校を卒業して町内に定着、また一度町外に進学や就職したものが U ターンする、さらには八雲町に住みたいといった者に対してインセンティブとして、地域産業が存在していることが重要な要因と考えています。

八雲町の基幹産業の一つである漁業・水産業をはじめ、地域の産業を守り、地域の維持・活性化の取り組みの一つとして、未来へ向けて萌芽を見せてきている北海道二海サーモンプロジェクトが開花できるよう、多くの皆様に応援いただきながら取り組みを進め、八雲町はもとより北海道、全国、世界の皆様に、北海道二海サーモンをご賞味いただき、笑顔で美味しいと言ってもらえるように、北海道におけるサーモン海面養殖のフロントランナーとして、北海道二海サーモンプロジェクトへの挑戦を続け、八雲町の地域産業の維持活性化の一翼を担うように、今後も務めていきたいと考えております。

これが私どもとしての、今回、皆様方にお示しさせていただいた、北海道二海サーモンプロジェクト未来へ向けての挑戦 今後の方向性でございます。

ただ、今回、ロードマップ、それから想定収支というものをお示しさせていただきましたが、経済がこれだけグローバル化して動いている時代です。それから最近の円安、急激な資源高・物価高など時々の社会情勢に左右されることが当然でございます。このプロジェクトは町だけではなくて漁協や漁業者で構成するサーモン養殖部会、企業などと連携・協議しながら進めていかないと、なかなか難しいところがございます。

そういった中で、今回、お示ししたとおり、想定どおり、場合によっては、推進できないことも生じますし、あるいは逆に順調に進んでいく場合もあるかもしれません。

今後も皆様のご意見を賜りながら進めてまいりたいと考えておりますし、引き続きご指導・ご鞭撻のほど、くれぐれもよろしくお願いしたいと思ひまして、大変長くなって申し訳ございませんが、私どもの説明を終わりたいと思います。

○議長（千葉 隆君） 推進室長、青森の企業さんとの協議というか、その辺も若干待ってくれていうことですので、そちらのほうの状況というか現況についても、併せて報告していただきたいと思います。

○サーモン推進室長（田村敏哉君） 議長、サーモン推進室長。

○議長（千葉 隆君） サーモン推進室長。

○サーモン推進室長（田村敏哉君） ご承知のとおり、私どもが提携をこれからしていこうとしている青森県の養殖加工事業者でございますが、サーモンの漁血の問題で逮捕されたという事件であります。逮捕されたんですが、まだ実は捜査中になっておりまして、魚の血を漁港に流すということですが、廃棄物処理法違反となっておりますが、実を言うと、あそこの法律上のルールがまだ明確になっていないのではないかという議論がございまして、今まだ捜査中で、その推移を見守っております。

この間、その会社の方も来ていただいて、そういった推移も見ながら協議を、状況見ながら協議を進めていくということで現在話しているところでございます。以上でございます。

○議長（千葉 隆君） それでは、事前に皆様のところには方向性ということで資料をかなり早い段階からお手元に配付しておりますので、できれば何ページだとかって示せる部分があれば、そこを示していただいて、質疑を受けてまいりたいと思いますが、何かございませんか。

○1番（赤井睦美君） はい。

○議長（千葉 隆君） 赤井さん。

○1番（赤井睦美君） ページはないんですけれども、令和元年から始めて、それから6年までは町が出資すると、その収入なしに出資を町が持ち出すお金はトータルでいくらくになりますか。

○サーモン推進室長（田村敏哉君） 議長、サーモン推進室長。

○議長（千葉 隆君） サーモン推進室長。

○サーモン推進室長（田村敏哉君） 概要版のところですね、概要版の5ページ目のところ、サーモン種苗生産施設の想定収支というところの一番下のところに、町の負担想定、起債補助等の一部充当予定と書いていますが、それによって変わってきますが、10億3千万程度、ここから起債等。

○1番（赤井睦美君） これはわかるんですけれども、今まで実験で3年間やってきましたよね、それもプラスしたら。

○町長（岩村克詔君） 熊石の海面養殖でしょ。

○1番（赤井睦美君） 違う、違う。今まで東野と熊石と両方に対して出資もしてきましたよね。その部分を足してほしい。

○サーモン推進室長（田村敏哉君） 10億3千万プラス、別紙の1のところですね、その部分はここに入れてない、今後の方向性ということで、ここに入れてないので、それを出すとまた負担も増えていくこととなります。

（何か言う声あり）

○町長（岩村克詔君） 熊石だけでもわかるからさ。

○1番（赤井睦美君） わかりました。

○サーモン推進室長（田村敏哉君） 熊石については、概要版の6ページですかね、6ページの下のところ、町の負担、R1期からR3期が約2,900万、R4期からR5期が4,700万、計7,600万となります。

○1番（赤井睦美君） わかりました。

○産業課長（吉田一久君） 議長。

○議長（千葉 隆君） どうぞ。

○産業課長（吉田一久君） R1からR3期についてとありますが、これ施設整備費も入っておりまして、町のほうで施設整備に係る生簀の整備に係る部分で補助金を出していますが、町の財源としては、生簀整備の半分、おおよそ令和3年度ですと、500万程度と地域づくり総合交付金を充当しておりますし、また2期目の整備についても現在、地域づくり総合交付金の要望を上げているので、そういったことで道の補助金等も活用しながら進めていきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

○1番（赤井睦美君） はい。

○議長（千葉 隆君） 赤井さん。

○1 番（赤井睦美君） 落部漁協のほうで3年目のときの生残率がすごく低いのが水温が関係あるんですか。19 ページですね。水温が影響してるんですか。

○水産課長（田村春夫君） 議長、水産課長。

○議長（千葉 隆君） 水産課長。

○水産課長（田村春夫君） 確かに赤井議員さんのおっしゃるように、常任委員会にも7月ですか、報告はしたんですけども、はっきりした理由はわからないのが現状であります。ただ熊石と比較したときの成長の差とか、そういった部分については海水温が、やはり大きく影響しているものと考えております。

○1 番（赤井睦美君） はい。

○議長（千葉 隆君） 赤井さん。

○1 番（赤井睦美君） 基本的なことで大変申し訳ない、この20mの円形生簀って何匹養殖できるんですか。

○サーモン推進室長（田村敏哉君） 議長、サーモン推進室長。

○議長（千葉 隆君） サーモン推進室長。

○サーモン推進室長（田村敏哉君） 説明がちょっと足りなかったんですが、直径20mの円形の生簀、ここに網を張って逃げないようにして、ここに先ほど言ったサーモン種苗生産施設で1尾あたり700gのやつを海水に慣らして入れますが、この20mの円形生簀1基あたり5千尾ほど。ですから今年の11月中、下旬くらいには円形生簀2基になりますから、1万尾を入れて、生残率が9割前後と考えますと9,000尾くらい、それで9,000尾×単純に1尾当たり3kgとしたら27t、去年3.4kgが平均でしたから27から30tくらい、できれば30tくらいを目指したいというのが現状でございます。以上でございます。

○1 番（赤井睦美君） はい。

○議長（千葉 隆君） 赤井さん。

○1 番（赤井睦美君） 今年度は卵は3万個でしたっけ。今、育てているのは。

○サーモン推進室長（田村敏哉君） 議長、サーモン推進室長。

○議長（千葉 隆君） サーモン推進室長。

○サーモン推進室長（田村敏哉君） 今年11月にサーモン種苗生産施設に、新たに来年度用の卵を入れます。販売単位が10万粒で卵としています。ただ、ふ化させて中間育成、稚魚にして幼魚にしていくためには、一定量の水が必要になるんですね、そういったことを考えたら今の施設で10万粒で10万尾作れるかという、かなり厳しくて、実をいうと卵から今年の11月、初めてなので、そういったのも踏まえて、まず3万尾、熊石地域を当然優先させて、プラスアルファで近隣のご希望も聞きながらというようなかたちで3万尾と考えています。以上でございます。

○1 番（赤井睦美君） はい。

○議長（千葉 隆君） 赤井さん。

○1 番（赤井睦美君） 今度はサーモン養殖部会に成長する魚たちを任せるって、サーモン養殖部会というのは、さっきでいうとひやま漁協の熊石支所の方たちの年齢を考えたらすごく上なんです、その方たち以外のサーモン養殖部会には入るという考え方ですか。

○産業課長（吉田一久君） 議長、産業課長。

○議長（千葉 隆君） 産業課長。

○産業課長（吉田一久君） ただいまの質問ですが、サーモン養殖部会でございます。現在、構成メンバー的には11名ございますが、ご存じのとおり皆さん高齢化が進んでございますが、そういった中で日々の養殖管理につきましては、現在、イカ漁業を主に行っております、内地のほうとかイカを追いかけていた方々が主になっておりまして、その二人の方が、今現在60代でございます。

この度2基目に増やすにあたって、ひやま漁協の熊石支所のほうで、さらにこの養殖漁業に携わらないかということで、組合のほうから漁業者さんに公募しましたら1名入るということで、その方は40代ということで、将来的には新しい組合員が増えなければ年齢的な心配もございますが、今回のこの計画については、たとえば新たな漁業者の育成も背景にございますので、そういったことも組合と協議しながら進めていきたいと。

現在そのことについても組合ともそのことについては情報共有しながらやっていきますので、将来に向けて頑張っていきたいと思います。

○1番（赤井睦美君） もちろん頑張ってもらわなければ困るんだけど、となると40代の人と60代の二人で合計サーモン部会って何人になるんですか。一番近いところで。

○産業課長（吉田一久君） 議長、産業課長。

○議長（千葉 隆君） 産業課長。

○産業課長（吉田一久君） サーモン部会全体、メンバーというか入っているのは十何名ですが、先ほど言った3名は毎日の餌やりや、常に従事されるのが3名でございます。生簀の設置やあるいは途中の網が入れ替えが必要だとか、あるいは水揚げ時には、このサーモン部会の方々も順次手伝いにきておりますので、そういった意味では3名でも今のところは養殖部会では支障がないと思っております。旧部会では11名というかたちでございます。

○1番（赤井睦美君） もう一個いいですか。

○議長（千葉 隆君） 赤井さん。

○1番（赤井睦美君） 法人に任せていくということで、法人はどういうかたちで構成されるんでしょうか。今後、6年以降は法人に。

○町長（岩村克詔君） 養殖は関係ない。

○1番（赤井睦美君） 卵の稚魚。

○サーモン推進室長（田村敏哉君） 議長、サーモン推進室長。

○議長（千葉 隆君） サーモン推進室長。

○サーモン推進室長（田村敏哉君） 令和6年中に設立予定の、サーモン種苗生産法人については、町と企業が出資し合って第3セクターというかたちで設立し、その種苗生産施設の運営にあたっていただくことを想定しております。なお出資比率等はまだまだこれから詳細を詰めて、また皆様にご報告しながら進めていきたいと考えております。以上でございます。

○1番（赤井睦美君） はい。

○議長（千葉 隆君） 赤井さん。

○1番（赤井睦美君） 日本海側の漁業は本当に大変で、こういうのを定着させるのは反対ではなく、本当に頑張ってほしいと思うんですけども、先ほどの雇用を増やすって面で考えたら、サーモン部会、養殖部会、もっと全国的に公募して、本当に若い人達が来るような形をとっていかないと、その40代の方が一人入りますという、その程度で終わってしまったら、なんか私この投資額が活かされるのか心配ですが、その辺はいかがでしょうか。

○町長（岩村克詔君） 議長、町長。

○議長（千葉 隆君） 町長。

○町長（岩村克詔君） 確かに熊石地域はですね、高齢化って先ほど説明したとおりですが、ただ、まだまだ見えてこないもので、募集はしていませんが、養殖のふ化のほうもそうですし、この海面養殖も同じで、若い人は、協力隊ということも考えているんですけども、ただ、本当に実業化できるのかどうかギリギリなので、なるべくこれから漁師になる人を、協力隊ということで3年間募集しながらできたらなって想定しています。

○1番（赤井睦美君） はい。

○議長（千葉 隆君） 赤井さん。

○1番（赤井睦美君） 今のお話だと、本当にもちろん先のことから全然見えないんですけども、万が一集まらず、それから情勢もどんどん変わって厳しいとなったら町長は、いつも駄目だと思ったらやめるって言うけれども、そういう決断もありってことでいいですか。

○町長（岩村克詔君） 議長、町長。

○議長（千葉 隆君） 町長。

○町長（岩村克詔君） 考え方をちょっと分けるとですね、海面養殖と種苗ってちょっと分けて考えます。海面養殖のほうはですね、変な話そういう状態にならないって私は感じしていますが、なる場合には漁師が辞めちゃうってこともあると思います。ただこの種苗センターは、あくまでも先ほど言ったとおり、安価に漁師の人たちに供給するということ、熊石地域である程度の雇用を産むためには、やはり50万とかいうのも作らないとない。この50万については、たとえば先ほど言ったとおり、熊石が1万5千しか使わなかったと。残り全てを買うところは決めているので、ある程度、全量買うってなっていますので、ただこの施設については公設民営で利益が出せないということですが、維持できる金額でちゃんとやるということですので、よほどのことがなければ、この出口のほうの種苗センター、幼魚の育成については、まずは天変地異、今の環境だとか水害だとかいろいろ考えたらどんなことが起きるか、そこまで言われたら何もできませんから、そういうことも想定して養殖のほうと、海面と種苗センターは全く別と。

ただしここは先ほど言ったとおり、ぶっちゃけて言ったらあれだけれども、結局は、ある程度順調に乗ったら、私は固定資産税程度は使用料取るかなということも考えています。それは600円700円の種苗の金額が出ていますが、これを500円とか下げたほうが漁師はやりやすい。ただ先ほど言った種苗をとると500円が550円とか530円とかこれは雇用が生まれる部分もありますので、金額的には間に合うように出せるってことで想定しています。

それと先ほど室長が説明したとおり、陸上養殖やいろんな部分の加工場は、いろいろ協議しながら、本当に合うならできますが合わなかったらやめるということも、検討はしていくということで、考えていただければと思います。

○1番（赤井睦美君） はい。

○議長（千葉 隆君） 赤井さん。

○1番（赤井睦美君） 今既に種苗センターというか稼働していますよね、そこで働いている方もいらっしゃるけれども、そこで雇用が生まれるって、どの程度の人数を想定していますか。

○町長（岩村克詔君） 議長、町長。

○議長（千葉 隆君） 町長。

○町長（岩村克詔君） 先ほど説明したとおり、最大5名くらいって書いていますが、多分ですね、もっとパートさんや、出荷するときとかに運送だとかいろいろ出てくるんです。ここの種苗センター、さっき言ったふ化する卵はこんな卵ですが、稚魚もこうですが、段々大きくなっていくということになると、運搬する人も出てきますし、もっと雇用が生まれるし、さらに先ほど室長言いましたが、今回この中間育成の中で今回2万の中に0.何パーセント、大きくならないものが出てきてる。これを料理店とかに試験的に作ってもらったら大変好評だったということがあるので、私も食べさせていただきましたが、大変美味しく作ってる業者の方もいましたし、さらに先ほど言った10万尾作っても全てこの600、700gにしたら水は足りないけれども、ある程度の期間は小さい卵から、たとえば50、100gくらいまでは、これを八雲町内の料理屋さんやいろんなところで使えたら、ホテル旅館もそうですが、使えたら八雲の武器になるのではないかって想定はしています。

○5番（関口正博君） はい。

○議長（千葉 隆君） 関口さん。

○5番（関口正博君） 種苗生産のほうは別法人のかたちということでよろしいですね。それで、種苗のページの17ページ、国内のサーモン養殖の状況、今、近隣町村でも奥尻、松前、木古内のいろんなところで海面養殖の試験を始めてきておりますが、それらの八雲町で作った種苗を地域で消費してもらって買っていただける、要はこの渡島・檜山地域、海面養殖やっている方々との連携体制っていうんですかね、それってどうなのかと。先ほど町長は種苗のほうはある程度処理できるということを申し上げました。それはそれらの中にこれらの自治体が入るのか、それとも企業なのかという今わかっている、言えないことはまだいいですが、その辺ちょっと教えていただけますか。

○町長（岩村克詔君） 議長、町長。

○議長（千葉 隆君） 町長。

○町長（岩村克詔君） もちろん、せたなとか奥尻とか、江差、泊、特にですね、今回大変良かったのは北海道のほうで、この日本海側のニジマス、トラウトサーモンの養殖、位置づけされましたので、各地域がやれるってことになります。さらにこの間、開発さんやいろんな人と話したときも、やはり日本海側、漁協が空いているのはたくさんあると、そこをある程度いった5千とか1万できるのはたくさんあるということで、そういうところには是非、供給をします。それは当たり前です。供給するけれども、さっき言った50万尾は、雇用と単価下がりますが残ったものを全部買うところが無かったら、私は安全策を考えますので、全部買うところがあってはじめてGoということですので、もちろん江差で2万粒欲しいたら売っていくのはもちろんです。

○5番（関口正博君） はい。

○議長（千葉 隆君） 関口さん。

○5番（関口正博君） 非常にですね、金額的にも大きい事業でもありますので、今これらやっているほかの自治体が、いろいろな考え方があると思います。10億程度で種苗生産施設ができるのかと、それは俺のところやったほうが、利益もその部分って経費って大きいっていうのは町長も知ってのとおりでしょうから。もしそんな動きが出てきて、函館は相当危機感持ってキングサーモンの事業、今回はニジマスで八雲町とも話をしてるんでしょうけども、函館市あたりが北大あたりとしっかり組んで、そのようなものをまたやりだすとか、いろんな情報はきっと水面下であるかもしれないし、それらの動向はしっかりと連携状態取りながら進んでいくのはこれから進めていくうえで非常に重要なのかなって気はしますが、町長どうですか。

○町長（岩村克詔君） 議長、町長。

○議長（千葉 隆君） 町長。

○町長（岩村克詔君） 確かに関口議員さんがおっしゃっているとおりで、今ですね、これサーモン養殖が先ほど北海道で位置付けされましたので、函館市長が先頭を取って渡島・檜山の養殖の連携協議会、そこを作るということで、10月13日に立ち上げる予定でいますので、しっかりと連携をしているということであります。それと、ふ化事業はどこでもできるかといったらできないんです。というのは、たとえば10万とか100万尾を海面使って養殖する場所は今のところないんです。

一番いいのは噴火湾ですけれども、ホタテが養殖やってるようで無理なので、ほとんど各地域でやっても先ほど言ったとおり、港の空いているところで最大1万や2万で、函館市も、私もいろいろ聞きましたが、海面で養殖する場所がなくて、もう噴火湾使わせないかって話していますので、結構そういう情報交換をしながら、この道南のサーモンの養殖は進めていくということですので、ご理解をいただきたいと思います。

○5番（関口正博君） はい。

○議長（千葉 隆君） 関口さん。

○5番（関口正博君） 先ほどの赤井さんとのやり取りの中で、私自身も気になるのは、以前から申し上げていますが、人材の話、種苗のほうはそんなに正直心配はしていませんが、海面養殖のほうで、やはり人材、ひやま漁協熊石支所、サーモンの養殖部会、もちろん一生懸命やってくださっていると思いますが、正直言えば、あまりにも弱すぎますよね、これからの人材の確保にしても、それを熊石地域のみでどうにかできるかといったらもう無理ですよ、完全に高齢化率考えたら。ひやま漁協自体も無理ですよ、ひやま漁協自体がどのような形で協議しているのかわかりませんが、どれくらいの思いを持って、本当に危機感を持ってひやま漁協がこのサーモン養殖部会を維持していこうって考えているのかっていうのは、ちょっとどのように感じているのでしょうか。

○町長（岩村克詔君） 議長、町長。

○議長（千葉 隆君） 町長。

○町長（岩村克詔君） 先般ですね、ひやま漁協の組合長とも話合いましたが、大変危機感を持っていると、このサーモン養殖については全面的にやっていくということで、ご存知かもしれませんが、今回、江差でやる養殖部会のトップは、ひやま漁協のトップがトップをやっているということで、真剣に取り組むということをいわれていますが、さらに、今回、大変良かったのは、噴火湾側のホタテを辞めた漁師の若い息子さんが、このサーモン養殖に興味を持って就職してくれたってことは、大変力強い養殖のこれからの漁業の人材になるものと、本人も俺はこれをやるために来たんじゃないかってことも言っていますので、大変期待を持って、やはりこれからこの噴火湾側の養殖やっている方々を、たとえば若い方が養殖に●●なったときに、このニジマスのほうのトラウトサーモンに働いて、その方を熊石に住んでもいいということで、まだ結婚していませんから、嫁さんもらって熊石に住むって言っていますので、大変嬉しいこともあるということでご理解いただきたいと思います。

○5番（関口正博君） はい。

○議長（千葉 隆君） 関口さん。

○5番（関口正博君） 今の話も伺っておりました。本当に期待したいと思っています。本当に施設はお金があればできるけれども、人材は本当に難しい部分だと思います。それで会社を立ち上げ

るまで町が面倒見ていくということでしょうけれども、これ施設ばかりではなく、人材にもしっかりと投資する。たとえば今入った方がしっかりと技術を教え込むという思いがある。これはひやま漁協も同じで、そこにしっかりとお金をかける、どんなことでもそうなんだろうけれども、これからのそういう考え方は絶対に必要だと思うんですね、もう人材こそ肝になってくると私は思いますし、人と人の繋がりが肝になってくると思いますし、そういうものへの投資もしっかりと考えていただきたいということをお願いして終わりたいと思います。

○町長（岩村克詔君） 議長、町長。

○議長（千葉 隆君） 町長。

○町長（岩村克詔君） 本当に大変嬉しい言葉だと思っています。ただ、ひやま漁協を一生懸命やろうって気概もあるし、いろんなことがあるんですけども、一番足りないのは、ひやま漁協はお金がないんです。これは合併してなかなかやとやっているという状況でありますので、熊石地域の漁業者の人材育成については議会の皆さんの理解を得ながら、町もバックアップして、今の人材についても、ある程度会社が立ち上がるまで町で面倒見ながら人材育成しようってことでかंगाえていますので、有り難い、大変良かったと感じていますので、今後とも人材育成の予算を出しますので、よろしくお願いいたします。

○議長（千葉 隆君） ほかに。

○11 番（斎藤 實君） はい。

○議長（千葉 隆君） 斎藤さん。

○11 番（斎藤 實君） 別紙3のですね、R4の種苗代金が1万尾に対して276万1,302円ということで、R3とR5期から比べたら非常に少ない金額なんですけれども、この考え方はどうなんでしょうか。

○サーモン推進室長（田村敏哉君） 議長、サーモン推進室長。

○議長（千葉 隆君） サーモン推進室長。

○サーモン推進室長（田村敏哉君） 斎藤議員がご指摘のR4期とR5期、大変申し訳ございません。

○11 番（斎藤 實君） 種苗代金。

○産業課長（吉田一久君） 議長、産業課長。

○議長（千葉 隆君） 産業課長。

○産業課長（吉田一久君） 斎藤議員のご指摘のR4期の種苗購入代金276万、R5期が約800万の差は何なのかということですが、R4のこの種苗の購入代金というのは、現在すでに鮎川のふ化場に入っている稚魚、要は秋に持ってくるのか、春に持ってきたのかの部分でちょっと代金下がっているというところです。今、入れているんですが、これは今年の秋に入りますので、通常、今までですと、青森から11月12月に持ってきたんですけども、申出にふ化場に入っているということで、魚が小さい、それと輸送コストもかかっていないという部分で金額が下がっているということでご理解いただけたらと思います。それ以降のR5期以降は、通常どおりこれから鮎川のふ化施設から秋に入れるって形になりますので、よろしくお願いいたします。

○議長（千葉 隆君） 要は小さいのからこれくらいって違いですね。

○11 番（斎藤 實君） 2回入ってるってこと。

○議長（千葉 隆君） 違う。今までは中間育成したものを入れてたけれども、今は稚魚を。

○町長（岩村克詔君） 前の年に、結局、前の予算で買ってるものは前にケリがついてる。それで次の年の秋に入れるものですから、結局は安くなるのは前に予算がいつてるから、だから安くなるということで、本来であれば、先ほど室長が言ったとおり、11月から12月までならいいんですが、町のは3月決算ですから、その辺の違いです。

○11番（斎藤 實君） 理由はわかりました。これは1匹で計算するんですか。

○サーモン推進室長（田村敏哉君） 私のほうから説明させていただきます。R4期は24.8gのサイズ1尾あたり、で買ってきてるんです。ですから小さいサイズなので価格も安いってことです。だからR5期については漁業者が買うのは一尾当たり100gにするので当然値段も高くなる。その差と考えるともらえたら一番わかりやすいと思います。

○11番（斎藤 實君） これ全体の海面養殖のほうなんですけれども、やはり漁業者にとってみては、やはり購入代金、できればまだまだ安く、それと餌代がちょっと高すぎるんじゃないのかなって、この二つの問題は、これから真剣に取り組まないと、やっぱり海面養殖ではなかなか利益が出てくる部分というのは今、机の上では出てますけれども、やっぱり生き物ですから、そう簡単にはいかない部分もあるので、その辺のところはコスト、いかに下げて売るかということを考えてもらわないと、ちょっと漁業者も将来的には厳しいんじゃないかなっていうふうに、この計画では思うんですけれども。

○町長（岩村克詔君） 議長、町長。

○議長（千葉 隆君） 町長。

○町長（岩村克詔君） 斎藤議員さん、本当に心配されることはそうだと思います。だからこそ今、中間育成の部分で、国や道の補助金をもらって施設を整備して公設民営でやることによって安価にやっていくということになります。さらに餌代も漁業者が使うだけの餌であれば、なかなか安くありませんが、中間種苗センターで使う餌と同時に買うってことで、安価にして出せるってことになるので、そういうスケールメリットもこれからも活かしていくと。

さらにこの円安っていうものが、少し追い風になって、売値が本当に徐々に上がってる状態なので、これからこの円安がどこまでというのは我々も計り知れませんが、急激には円高の昔の100円には戻ってこないだろうというのが専門家の話なので、その辺も加味しながら、そうすると漁業者が儲かれるように、我々は一定の金額で出していくと。漁業者が本当にこの値段が上がったときに儲かれるように、そして後継者が持続できる仕組みに町も一生懸命頑張っていきたいと思いますので、議員の皆さんもどうかご協力いただけたらと思います。

○議長（千葉 隆君） ほかに。

○8番（三澤公雄君） はい。

○議長（千葉 隆君） 三澤さん。

○8番（三澤公雄君） 人材を呼び込む話とかがいろいろ出ていましたが、今日はサーモン推進室の説明なので、そこから超える部分で、やっぱり町は総合的な力を、つまり熊石には今、住むところがないということがありますから、町が人材を確保するというので、総合的な力を出すためには、熊石でどうやって住むところを確保するか、若い人達が定住しやすい環境をどう作っていくかという視点がやっぱりサーモン推進室のことが超えてしまうので質問を遠慮してんですが、そこ触れないといけなかなと思うので、その辺が熊石は八雲と比べても弱いところだと思いますから、その辺のところをお話してもらえたらと思います。

○町長（岩村克詔君） 議長、町長。

○議長（千葉 隆君） 町長。

○町長（岩村克詔君） あまり全員協議会で話していいか。これから今、熊石で考えているのは、先ほど三澤議員さんがおっしゃってるとおり、赤井議員さんやいろんな方、人材育成、新しい人材を入れていくということになるので、今、熊石高校の跡地をですね、跡地は町で使うということで無償ですが、付いている宿舍を買い取るということで道の教育委員会と話し合いをしています。あそこに人の配置もできて、さらに皆さんご存じのとおり、すまいるってモダ石油さんがやった、あれが撤退して、ずっとボロボロになるのも大変だということで、今、特に住民サービス課と熊石支所が一丸となって、あそこのところの2階が人が住めるようになっていきますから、協力隊やお試しで仕事する人達も移住・定住も含めて、あれも今、買い取ろうかっていうことで、まだ議会にも説明していませんが、これから常任委員会で説明しながら理解を得ようと思って今、発信しようと思っていますので、また、熊石の中で高校跡地の住宅が欲しいって方も何名かいらっしゃるので、その方々のためになるということで、今買おうってことで考えています。

○8番（三澤公雄君） わかりました。

○議長（千葉 隆君） ほかに。

○2番（佐藤智子君） はい。

○議長（千葉 隆君） 佐藤さん。

○2番（佐藤智子君） 令和6年度で法人化するというので、町と企業が出資して第3セクターでやっていくっていうお話でしたが、この法人というのは青森の会社っていうふうに、もう決めているんですか。

○町長（岩村克詔君） 議長、町長。

○議長（千葉 隆君） 町長。

○町長（岩村克詔君） 今のところですね、町と青森の会社、もしくはもう1社、まだまだ想定していませんが、やはり我々、技術力と、すべて買い取ってくれるところが、安定的に買い取ってくれるところを想定しながら組もうということで今、協議をしています。

○2番（佐藤智子君） はい。

○議長（千葉 隆君） 佐藤さん。

○2番（佐藤智子君） そうすると令和5年度あたりに契約を締結するとかそういうスケジュールになりますか。それとも令和6年度になってからということなんですか。

○町長（岩村克詔君） ロードマップの1ページのですね、法人設立ってことで書いてありますけれども、先ほど室長が説明したとおり、令和5年度に検討しながら法人設立を、令和6年度、ただ先ほど何回か言っていますが、どうもふ化するときは11月か12月って我々の年度とちょっとずれ込むってことで、多分決算も年度になるか我々も想定していませんが、ちょうど一番海面に入れる、さらに今、幼魚を売ると、それと11月末にはふ化するということでこの11月12月は一番の、そして水揚げが6月になるので、なかなか年度ははつきりしませんが、だいたい今の想定ですと令和5年度に法人の設立の検討とかを、また議員の皆さんに常任委員会で説明しながら、法人設立は早かったら早かったら令和5年度の秋か令和6年度の春かということで想定してるということでご理解いただきたいと思います。

○2番（佐藤智子君） はい。

○議長（千葉 隆君） 佐藤さん。

○2番（佐藤智子君） 今、令和4年度なのでちょっと間が空いていると思いますが、青森の事業所はちょっと残念な事件があったわけですが、なんらかの繋がりを持ち続けていくってお考えなんですね。

○町長（岩村克詔君） 議長、町長。

○議長（千葉 隆君） 町長。

○町長（岩村克詔君） なんらかの繋がりというか、先ほどから何回も言っているとおり、このふ化事業も養殖事業も我々青森の業者と連携しながら技術を教えてもらいながら進んでいるということですので、これから中間育成や、いろんなことを協力していくってことで考えています。

ただ、佐藤議員さんがおっしゃっているとおり、今の事件をですね、これ注視しながら、ただ先ほど室長から話したとおり、漁業者も港の中で活ベはやってるんです。北海道でも全国的にも。だからちょっとその辺は本当にどういう状況になるか見ながら我々も進めている。ただ、技術的なことやそういうことは今の青森の業者が日本でトップだと思っていますので、協力体制はしていくということでご理解をいただきたいと思います。

○2番（佐藤智子君） はい。

○議長（千葉 隆君） 佐藤さん。

○2番（佐藤智子君） この1社はちょっと気になっていたんですけども、そういうのでいろんな契約する前からいろんな経費がかかると思うんですが、そういうのは予算上では出てくるものですか。どの経費だとか。

○町長（岩村克詔君） 議長、町長。

○議長（千葉 隆君） 町長。

○町長（岩村克詔君） 会社設立というのは、たとえばですよ、町がたとえば3千万資本金出す、向こうが1億出すとか3千万出すとか2千万出すとか、たとえば2社ではなくてもう1社入れて3社になる可能性もあるし、そのときの準備までは、準備はあくまでも町は町、会社は会社でやって設立したらその法人が経費としてやっていくということになるという、今まで青年舎や木蓮を作ったときと同じと考えていただきたいと思います。

○5番（関口正博君） はい。

○議長（千葉 隆君） 関口さん。

○5番（関口正博君） 室長の説明の中で、道の成長戦略、産業化戦略のお話がありましたが、何か有利な起債があれば使っていきたいって説明がありましたよね。これってどうなんでしょう、見通しとしては何かしらのお金っていうものは、ただけそうなんですか。

○サーモン推進室長（田村敏哉君） 議長、サーモン推進室長。

○議長（千葉 隆君） サーモン推進室長。

○サーモン推進室長（田村敏哉君） 国のほうでも道のほうでも位置づけとなります。ただ、この国に関しては水産養殖業の補助金もあるので、これがどの程度該当になるのかは、これから追求していきたいと考えておりますし、既存の道の補助金で地域づくり推進事業の補助金もありますし、場合によっては地方創生交付金というものも検討に価するかなと考えています。どの組み合わせが一番有利になるのか、それとその補助金プラス記載、交付税のバックがあるような起債も組み合わ

せながら、そこは町の財政状況とも相談しながら進めていきたいと考えています。今の段階では、これは確実に内定ができるというところまでは、残念ながら至っていないということです。

○5番（関口正博君） はい。

○議長（千葉 隆君） 関口さん。

○5番（関口正博君） おおよそで構いません、どの程度はまかなえそうな感じですか。たとえばパーセンテージなら何パーセントくらいならいけるんじゃないとか、そんな見通しも今の段階では言える状況ではないですか。

○サーモン推進室長（田村敏哉君） 議長、サーモン推進室長。

○議長（千葉 隆君） サーモン推進室長。

○サーモン推進室長（田村敏哉君） まず施設のですね、規模とかどこが対象になるかもちょっと出てきますから、そこはまた別な機会に、また具体になったらご説明を当然させていただきたいと考えておりますので、ということでご容赦いただければと思います。

○議長（千葉 隆君） ほかに。

○7番（倉地清子君） はい。

○議長（千葉 隆君） 倉地さん。

○7番（倉地清子君） 私、議員になって丁度1年くらいになるんですけども、サーモン事業に関しては全然進んでいる中で、チンプンカンプンで、ようやく議員さんの質問や役場側の話を聞いて、少しずつわかってきているところで、実際に一生懸命やってくれてるんだから、どうせやるなら成功してほしいという思いです。ずっといる中、良いこともあって、札幌に行ったときに、食べたら美味しかったし、八雲二海サーモンと書いているのぼりがあったら嬉しいし、熊石の住民のご家族が札幌に住んでいて、そこでちょっと八雲ののぼりがあって写真撮ってくれてうれしかった、頑張っしてほしいって声も住民から聞かれてるので、私も一生懸命勉強して皆さんに追いつくようにしていくし、頑張っってやっていきたいと思っていますので、その一声を言いたかったの。

○町長（岩村克詔君） はい。

○議長（千葉 隆君） 町長。

○町長（岩村克詔君） 議員の皆さんもこうやってPRしていただいて、いろんなことをしてると思ってることに感謝いたします。

先般、東京大崎のグリルハーベスターでミノリ商事さんが、サーモンと北里八雲牛を販売いたしました。二海サーモンが一番早く売れました。もっとたくさん持ってくればよかったって、ミノリ商事の売ってる人達が言っていました。

だから、かなりですね、このサーモンについては東京でも食べてるということで、ずっと売るんですとか、今、試験なんですって話をされていて、是非、議員の皆さんもPR等々していただけたらと思いますので、もしPRで使うことであれば相談していただけたら、議長さんを通してでも、事務局を通してでも、是非、ちょっとPR行きたいからサーモン欲しいとなったら、今年度はもうないから、来年度はそういうことも想定して、議員の皆さんが何処か行くときにPRするものということで、少しは準備したいと考えていますので、よろしくお願いいたします。

○議長（千葉 隆君） ほかにございませんか。

（「なし」という声あり）

○議長（千葉 隆君）　じゃあ、サーモン養殖についてはこの程度に留めて、全協の関係は、ご存知のように調整の場ですから、所管は総務経済になりますし、今回は事情があつて、そちらのほうは割愛した中で手続き取ってますので、ご了承願います。

あともう一点ですが、今回、定例会のときに、全協やればやれたんですが、今日まで延びていたんで、9月の定例会でも一般質問で職員の人材育成のお話や、あるいは採用の話がされました。ほかの議員さんからも、今の八雲町の状況、とりわけ職員の関係、いろいろと心配されていることもありますし、10月1日からまた人事異動もありまして、職員の部分でいうと人事は大変重要な案件で、それに対して不満もあれば喜びがある部分もそれぞれ持っていますが、実態として平成17年に合併したときに、職員318名、一般職の人がいたんですね、それでその当時の職員で私もいますから、その当時職員も含めて、あるいは町の財政も含めて行財政改革をやって、人員の適正化ということで、目標値を276人に設定をしながら5年間単純に40人ということで縮小して定数の位置づけをしてきたと。それ以降段階の世代の大量定年ということで、その定数すら守られないような状況で採用もゆるくないし、中途の退職という状況があると。

その中で一般質問やいろんな部分が出てきているので、やはりそれぞれサーモンの事業やいろいろな施策を練ることも大切ですが、やはり令和5年度に向けて、人の確保、採用と中途退職しないように、人材育成も含めて力を入れていただきたいという声が議会のほうでそれぞれありますので、令和5年度、各施策も大事ですが、そういった定員管理や人員の確保、そして育成に注視しながらお願いしたいなということを申し出て今日は終わりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

それから町のほうから報告が一件ありますので、受けていきたいと思います。

○総務課長補佐（相木英典君）　議長、総務課長補佐。

○議長（千葉 隆君）　総務課長補佐。

○総務課長補佐（相木英典君）　私からは、新型コロナウイルス感染症にかかる公表の見直しについて、ご説明させていただきます。

これまで新型コロナウイルス感染症の感染状況については、町ホームページ及びラインで公表していましたが、次の理由によって、公表しないことといたしました。これに伴いまして、議員皆様への公表前の情報提供、公表しないものですから、公表前の情報提供についても取り止めさせていただくことといたしますので、よろしくお願いいたします。

一つ目といたしまして、町職員の感染についてです。基本的な感染防止対策の徹底によりまして、不特定多数の町民の皆様と濃厚接触の疑いが生じる可能性は低いことから、公表しないことといたしました。

なお、町の業務を一時的に停止する場合や、町の施設等でクラスターが発生した場合など、町民生活に影響を及ぼすと考えられる場合には速やかに公表することとします。この場合については、事前に議員皆様に情報提供させていただきたいと思っています。

二つ目として、市町村別の感染状況についてです。北海道が公表しております、7日間累計を確認し公表してきましたが、9月26日から新型コロナウイルス感染者に係る全数届出が見直され、北海道の公表内容も把握可能な一部の情報に限定されることから公表しないこととしました。

三つ目として、町内の介護保険事業所における集団感染の発生についてです。町内の介護保険事業所において、集団感染が発生した場合、関係機関からの情報収集に勤めながら公表してきました

が、全数届出の見直しによって把握可能な情報が限定されることから、新たな集団感染の発生については公表しないことといたしました。

以上についてご報告させていただきました。なお、町ホームページ、LINEで全体的にお知らせすることといたしますので、よろしくお願いいたします。

○議長（千葉 隆君） このことについてご質問はありませんか。

なければこれで報告も含めて終わりたいと思います。ご苦労様でした。

◎ その他

○議長（千葉 隆君） そのほか、皆さんのほうから何かありませんか。なければ今日はこれで終わらせていただきます。いずれにしても莫大な町の税金を投入している事業ですので、今後も引き続き総務経済のほうで調査しながら、より良い方向に向かって頑張ってください。よろしくお願いいたします。

〔閉会 午後 0時12分〕